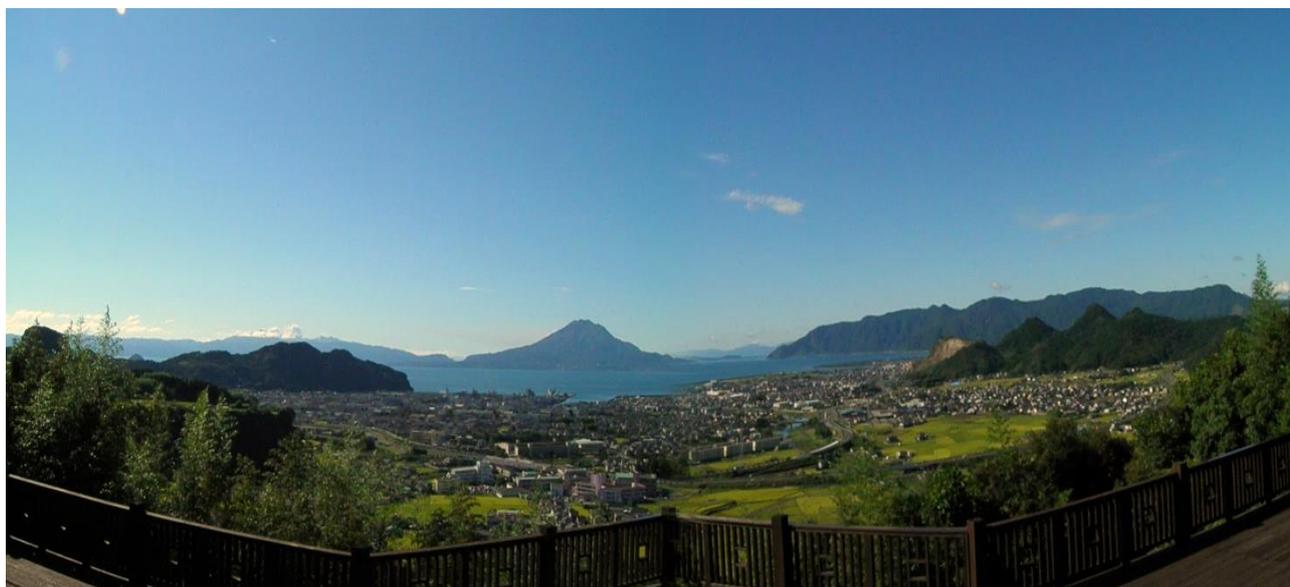


竜門校区まちづくりプラン (竜門校区振興計画)



さえすりの森「高倉展望所」から見た桜島の景観と始良市(加治木町の街並み)です。
平成7年(1995年)野鳥の住む自然公園、1年中利用できるキャンプ場としてオープン。
平成8年には、「小鳥がさえする森づくり運動」で環境庁自然保護局長賞を受賞。
平成10年にロッジ・展望所・林間広場・炊事棟が完成。

この写真の展望所は、木製で鳥が羽を広げて羽ばたくイメージで作られています。

平成29年 3月
竜門校区コミュニティ協議会

《 目 次 》

はじめに

I 竜門校区の概要

1. 竜門校区の位置図
2. 竜門校区の特色ある風景・史跡・伝統芸能等
3. 竜門校区コミュニティ協議会の組織体制

II 竜門校区の現状と取り組み

1. 竜門校区の現状
2. 竜門校区の取り組み

III 竜門校区がめざす将来像

IV 主な取り組みと役割分担

V 計画の推進に向けて

VI 資料編

1. 計画策定の経過
2. 竜門校区まちづくりプラン策定委員会委員

はじめに

平成 27 年 4 月に竜門校区公民館より、竜門校区コミュニティ協議会として、発足致しました。

建物の中には、竜門校区コミュニティ協議会の事務所・児童クラブ・森林組合・消防団詰所、二階には、大会議場が有りいろいろな部門の打ち合わせ、会議が開催されます。毎週“竜門わくわくサロン”も開催されています。

竜門校区コミュニティ協議会は、24 の自治会(4 つの地区公民館)をはじめ、13 団体のご協力のもと、59 名の代議員で地域の活性化を図り、快適な生活が実現できるまちづくりをめざして活動を進めています。

これからのまちづくりは、住民と行政が「自助・共助・公助」の役割分担において、まちづくりを進める必要があります。

平成 28 年度、始良市から 17 協議会に対して“まちづくりプラン”作成の提案があり、竜門校区コミュニティ協議会でも、5 月の役員会で作成することを決定し始良市に申請。作成に向けて 15 名の“まちづくりプラン”策定委員を公募・推薦し協議してきました。

社会教育部会・地域安全部会・伝統行催事部会・地域づくり部会の 4 つの部会ごとに分かれ、竜門校区の課題を出しあい、その解決に向けて取り組むことを考え、実施時期、役割分担などを検討し、また、先進地視察、及び、アンケート結果も勘案しながら進めてきました。

この住民自ら策定した、“まちづくりプラン”の計画を活用して、さらに住み良い地域づくりを進めていきたいと思えます。

竜門小学校は、明治 9 年現在の陶夢ランド辺りで「龍門学舎」として犬童英輔氏が授業を開始。

明治 11 年現在地で正式に創立(写真の左側)。

写真右端が、旧竜門中学校跡で、現在、竜門校区コミュニティ協議会の事務所が 1 階にあります。



平成 29 年 3 月

竜門校区コミュニティ協議会
会長 東木 義和

I 【竜門校区の概要】

記録によると、明治31年(1898年)小山田区長制度が始まり、初区長として坂部利兵次が就任しました。区長制度は102年間続きましたが、公民館法に基づき平成13年(2001年)に校区公民館制度に移行しました。

平成22年(2010年)3月23日始良、加治木、蒲生の3町合併し、混在する自治運営制度を統一する為に検討を行なって参りました、合併5周年を機に始良市17小学校区を単位として、平成27年(2015年)に竜門校区コミュニティ協議会に移行しました。

竜門校区は、始良市の東側に位置し、霧島市(溝辺：鹿児島空港)に接する台地に有ります。鹿児島空港には、車で約10分弱、南九州道・東九州道のインターには、5分弱、また、主要県道の55号線が走り、湧水町・伊佐市へと続いています。

地区から校区へ——
17校区にコミュニティ協議会が設立
 ～地域の資源活用と課題解決、校区まちづくり本格始動～

地域の歴史の経緯や地域特性を踏まえつつ、自治会をはじめ、子ども会、老人クラブなどの各種団体が地域の課題解決や活性化に取り組む校区コミュニティ——。昨年中、市内全17校区で協議会が発足しました。コミュニティでは、すでに校区内の区民交流イベントなどが行われています。また、少子化や都市化、防災・防犯、福祉や教育など各分野についての話し合いや対応も進められています。 ※写真は校区の交流行事

17の校区コミュニティ協議会

校区	〒	所 在	校区	〒	所 在
1 柘 城	73-5627	加治木町本町253番地(加治木総合支所敷地内)	10 山 田	73-7434	下名1188番地(山田地区公民館内)
2 錦 江	73-6351	加治木町錦江町74番地(錦江小学校公民館内)	11 北 山	68-0511	北山849番地3(始良生活改善センター内)
3 竜 門	73-7141	加治木町小山田1363番地(旧竜門中学校内)	12 始 良	73-8389	西餅田3311番地1(働く女性の案内)
4 永 原	73-5287	加治木町西別府2490番地2(永原小学校公民館内)	13 西始良	73-8415	西始良一丁目22-3(西始良校区自治会集会所)
5 加治木	73-3150	加治木町友土2955番地(加治木小学校公民館内)	14 松原なぎさ	73-8371	松原町一丁目16番地2(松原地区公民館内)
6 帖 佐	73-7584	鍋倉646番地3(帖佐地区公民館内)	15 蒲 生	73-4307	蒲生町上久徳2399(蒲生総合支所敷地内)
7 建 昌	73-4401	東餅田1598-58(ホームタウン帖佐集会所内)	16 漆	52-8778	蒲生町漆301番地1(旧JAあいら漆支所跡)
8 三 船	73-6683	寺師818番地3(三叉コミュニティセンター内)	17 西 浦	73-8641	蒲生町西浦828番地1(西浦地区交流センター内)
9 重 富	73-7174	平松6252番地(重富地区公民館敷地内)			

※事務局の開設曜日は各コミュニティで異なります。

問合せ先 自治振興係 ☎66・3121

始良市広報誌より

1. 竜門校区の位置

※ 竜門校区コミュニティ協議会(4 地区公民館の全体図)

【①西元地区公民館・②西浦地区公民館・③東元地区公民館・④東浦地区公民館】



2. 竜門校区の特色ある風景・史跡・伝統芸能等

◎ 《竜門小の大銀杏》



竜門小学校は、犬童英輔さん寄贈の武道館で、“龍門学舎”として授業を開始。

現在の陶夢ランド屋外競技場辺りに有りましたが、その後、小山田村役場となりました。

明治 11 年 5 月に現在地で正式に創立、同 19 年簡易小学校となり、同 25 年尋常小学校、昭和 22 年 4 月に加治木町立竜門小学校と改称(児童数 515 名)。

現在は児童数 61 名、に至っています。

象徴の大銀杏は、大正 11 年 11 月に植樹されています。

◎ 《竜門小の校旗と扁額》

☆ 竜門小学校校旗



*現在の校旗は、昭和 41 年度、第 20 回卒業生寄贈の校旗です。

生地は、絹織物で幅 950 cm、縦 65 cm。

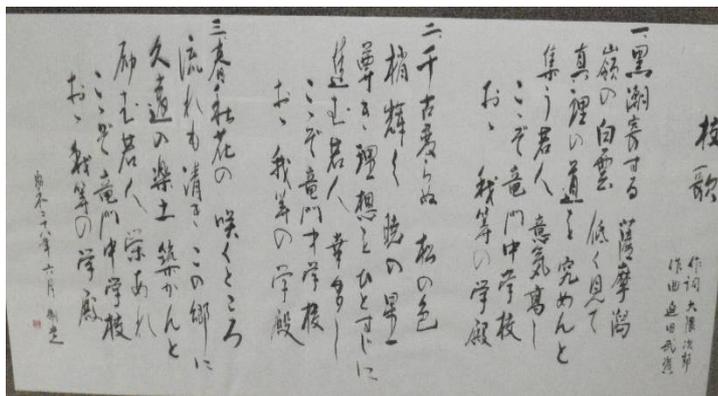
☆ 校旗の基、先達 床次竹二郎氏揮毫による扁額



とこなみたけじろう

*床次竹二郎先達は、1867～1935 年衆議院議員で、逓信大臣、鉄道大臣、内務大臣等、歴任された方です。鹿児島生れ

◎ 《竜門中学校の校歌》



昭和 28 年に制定された、竜門中学校の校歌です。

竜門中学校は、昭和 22 年加治木中学校竜門分校として発足。昭和 26 年分離独立し竜門中学校となったが、昭和 55 年永原・竜門・加治木中学校が統合、新生加治木中学校となりました。

◎ 《竜門小学校周辺の田園風景》

桜島山も春夏秋冬、色を変えるように、この静かな里も、四季おりおりの風景を見せてくれます。ここに、大井上(老亀)神社と小山田氏の墓の史跡が有ります。

網掛川の豊かな流れが小山田の田園地帯を潤わせ恵みを与えながら、板井手滝、金山橋を経て、龍門滝へと続いています。



◎ 《大井上(老亀)神社》



昭和 12 年小山田村の村社となり、昭和 42 年近隣の神社を合祀し本殿を修復。その時に伝来してきた墨書材を町に寄贈。調査の結果、「天正 15 年、豊臣秀吉が九州に侵攻。島津勢がそれを迎え撃ったが敗北。島津の殿様が京都へ連れて行かれたが、しばらくして殿様は無事帰国し領国安堵となった。このことを感謝して神社を造る」と、喜びの声を書き残したものです。墨書材は、加治木郷土館に保存されています。

◎ 《小山田氏の墓》

小山田氏は、平安時代末期の領主と考えられます。加治木氏 5 代資光の弟資頼が、小山田姓を使ったと「加治木氏系図」に書かれています。一基の五輪塔と 2 基の宝篋印塔から成る。西側の宝篋印塔には「元亀元年」(1570 年)と年号が確認でき、創設時期を示すものであれば、加治木氏が滅亡し伊地知氏、肝付氏のころまで、小山田氏は存続していたと思われる。加治木氏は、290 年続いています。子孫の方は、始良市にお住まいです。



◎ 《金山橋と板井手滝》



金山橋と板井手滝です。

金山橋は、長さ 23m、幅 4.3m、高さ 10m。明治 13 年島津家が横川の山ヶ野金山・永野金山経営の物資運搬の為に作ったとされています。ただ、建設資料は一切残っていません。

平成 27 年に橋の老朽化に伴い、橋の改修工事と写真左側、橋のたもとに駐車場と水洗トイレ、及び、展望所が完備されました。アーチ形の橋と板井手滝のコントラストが絶妙です。

◎ 《龍門滝》

“龍門滝の雄壮”として、加治木八景の一つです。龍門滝温泉の横を上流に行ったところに碑があります。この横に大正期に活躍した加治木出身の是枝快春の龍門滝を読んだ歌碑があります。

この横を通り過ぎ、奥の小高い丘の上に滝展望所があり、瀧観音が有ります。島津久微(錦水)が建てたもので、背には漢詩がかかれています。

昔唐人がこの滝を見て、“漢土の龍門の滝を見るが如し”と言ったので、龍門滝と呼ばれるようになりました。

高さ 46m、幅 43mで、平成 2 年日本の滝 100 選に選ばれています。また、平成 27 年に遊歩道が完備され、龍門司坂へと続きます。



◎ 《龍門司坂》



龍門司坂は、江戸時代の主要街道(大口筋)でした。

1635 年、第 18 代島津家当主、家久のときに造られ、粘土質の坂道だった為、1741 年、加治木島津家第 4 代、久門の時に樋ノ迫から石を切り出し、石を敷き、石畳としました。当初、1500m 程残っていましたが、一部生活道路になった為、現存するのは、464m です。平均道幅は 4m、最大幅 7m。

1810 年には、大日本地図を作った伊能忠敬も訪れ、1877 年には、西南戦争で西郷隆盛軍が大砲を曳いて通っています。NHK の大河ドラマの、“飛ぶが如く”“篤姫”などの撮影も行われました。

◎ 《陶夢ランド》

“加治木龍門陶芸・健康の里”として、平成 14 年(2002 年)、4 月にオープンしました。

地元、龍門司焼の陶芸を核とした、生涯学習の推進と、健康づくりを通じ、元気で活力ある地域づくり、人づくりを目的とした、施設です。

屋外には、多目的広場や遊水・遊具施設。屋内競技場は、運動会・ゲートボール・テニス・弓道の遠的・近的の競技。多目的ホールは、卓球や集会。会議室では、いろいろな教室が開催されています。



◎ 《龍門司焼》

龍門司焼(薩摩焼)は、島津義弘公が1598年(慶長3年)、朝鮮から陶工を連れて帰り、現在の伊集院美山に陶窯を築かせ、作りはじめたのが始まりです。

島津義弘公が1607年(慶長12年)、加治木屋形に移るとともに、二人の陶工家とともに移りましたが、その一人の子孫(陶嗣)が、良い粘土を求めながら作陶を続け、幸い小山田高崎松尾坂に白い石(材料)を見つけ、焼き物を始めたのが、現在の“龍門司焼古窯”です。

その後、1772年(天明2年)以降、川原姓が受け継いでいます。

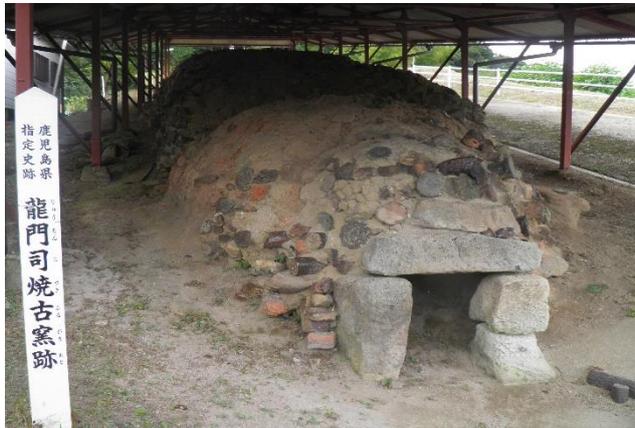
※ 昭和に活躍した川原軍次は、龍門司焼の技術と秘伝を習得、研究を重ね、古龍門司焼の「三彩焼」を完成させ、昭和39年、鹿児島県指定無形文化財代表技術保持者に指定されている。

☆龍門司焼企業組合 (川原史郎理事長)

☆次郎太窯 (川原輝夫代表)



◎ 《龍門司焼古窯》



昭和23年、企業組合をつくり、川原家を中心に多くの名工を生み出しながら、龍門司焼は、引き継がれています。

昭和29年に、現在の(県道55号横)のところに登り窯を作り、古窯は約230年余り使われたが、県の文化財として残されています。

◎ 《小山田太鼓踊り》

慶長5年関ヶ原合戦後、江戸で疫病が大流行。たまたま駿河(静岡)の念仏踊りが、町中を練り歩いたところ、猛威を振るった疫病も下火になり、終息した事を義弘が聞きつけ、慶長7年、家久が上洛するときに家臣の山田郷の池田千兵衛と加治木郷の牧野某を追従させ、踊りの服装や歌、踊り方を習得させ、また、朝鮮の役後の凱旋にふさわしい工夫をし、慶長13年義弘が加治木移城の時に初めて踊らせたのが始まりだと伝えられている。他に西別府だけの吉左右踊りがあります。



3. 竜門校区コミュニティ協議会の組織体制

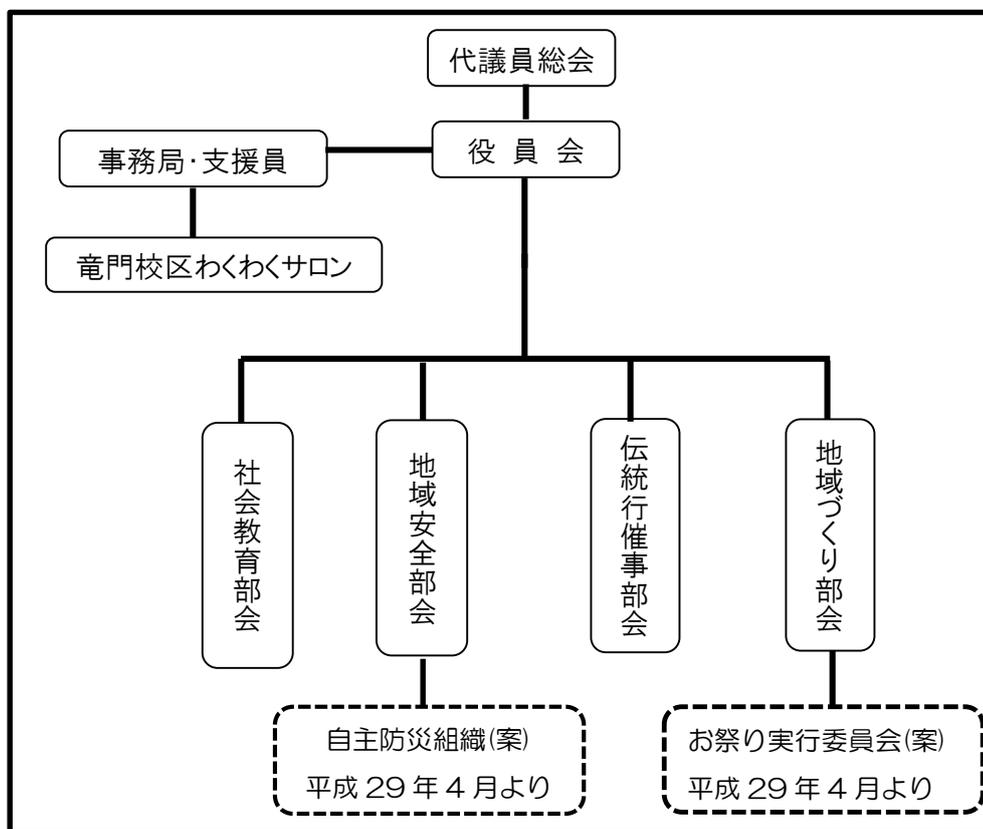
① 設立年月日 平成27年4月26日

② 構成団体 次頁

③ 平成28年度役員名

会長	東木 義和	副会長	三村 やよい
事務局長	二見 眞寛	会計	二見 眞寛
社会教育部会長	三村 やよい	地域安全部会長	兼 松 裕二
伝統行催事部会長	鶴田 良子	地域づくり部会長	内村 靖夫 (故) 一夫

④ 組織図



構成団体（第3条、第9条関係）

No	団体及び役職名	代議員数	No	団体及び役職名	代議員数
1	布越自治会	1	22	市来原自治会	1
2	井手向自治会	1	23	新開自治会	1
3	高崎自治会	1	24	宮田ヶ平自治会	1
4	岩穴口自治会	1	25	各地区公民館	4
5	徳永自治会	1	26	各地区公民館女性部	4
6	小田倉自治会	1	27	各地区公民館体育部	4
7	迫上自治会	1	28	各地区育成会(子ども会)	4
8	迫下自治会	1	29	小山田太鼓踊り保存会	2
9	御狩山自治会	1	30	集落営農組織	1
10	毛上自治会	1	31	民生委員代表	1
11	加治木龍門自治会	1	32	東部消防分団小山田部	2
12	茶碗屋自治会	1	33	小山田交通安全部会	2
13	伊部野自治会	1	34	竜門小学校 PTA	2
14	石野自治会	1	35	竜門小学校	2
15	鞍掛自治会	1	36	始良市スポーツ推進委員	1
16	下東木自治会	1	37	農業委員	2
17	上東木自治会	1	38	グループホーム 小山田の里	1
18	赤谷自治会	1	39	小山田保育所	1
19	西浦西自治会	1	40	※ SSVC	1
20	上川内自治会	1	41	小山田を語る会	1
21	川内自治会	1		合 計	59

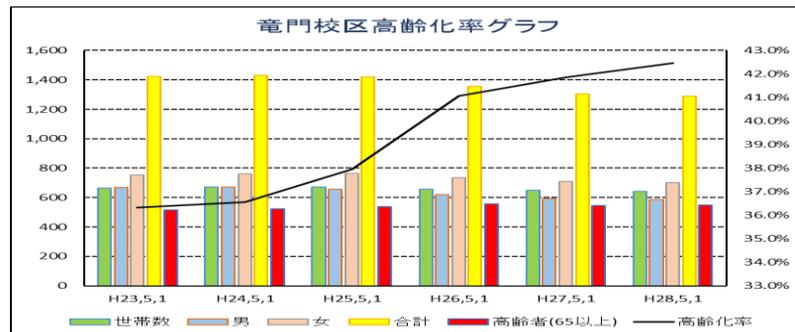
※ SSVC：スクール・サポート・ボランティア・コーディネーター

Ⅱ 【竜門校区の現状と取り組み】

1. 竜門校区の現状

[平成28年5月1日現在]

- ① 人口 男子 587人 女子 701人 合計 1,288人
- ② 世帯数 643 世帯
- ③ 高齢化率 42.5% (65歳以上)



④ 関係小・中学校

- ・竜門小学校 男子 25人 女子 36人 合計 61人
- ・小山田保育所 男子 18人 女子 15人 合計 33人

⑤ 消防団 加治木方面隊東部分団小山田部 団員 14人

⑥ 警察 加治木中央交番

⑦ 校区内の主要施設

- ・竜門小学校
- ・小山田保育所
- ・小山田公民館 (児童クラブ,消防団詰所,森林組合,大会議場,協議会事務所)
- ・陶夢ランド
- ・グループホーム小山田の里
- ・JA小山田支所
- ・小山田簡易郵便局
- ・小山田農産加工センター
- ・さえずりの森

⑧ 校区の産業等 (農地等の現状)

農地面積は、畑が62.6ha、田んぼが75.3haで農作物は、主に、米、及び、加工用大豆や飼料用作物です。

2. 竜門校区の取り組み

《専門部毎》

① 伝統行催事部会

大井上神社は、1476年に藤原氏が社殿を建立し、火・燦・台所・山・田・畑・家・畜産の神が祭られ、小山田地区の平穏と繁栄を見守って下さる氏神さまです。

加治木の太鼓踊りは、江戸の町での疫病の大流行を鎮めたとの話を聞き及んだ島津義弘公が、家臣に習得させたことに始まりとされており、ご先祖様の御霊を送り、雨乞いや虫追い踊り等として地域に継承されています。

今後も、大井上神社の催事の伝承と、小山田太鼓踊りの保存を将来に、引継いでいきます。

② 社会教育部会

竜門校区公民館活動から引き継いだ、年2回開催の「グラウンドゴルフ・ゲートボール大会」には、毎回、80名ほどの参加があり、交流・親睦を図る場所となっています。また、「竜門小・校区合同運動会」、「立志式」には、竜門校区コミュニティの役員がより一層主体的に関わることにより開催意義が深まり、参加者が増えつつあります。

今後は、家庭や学校、4地区公民館と広報活動等も連携・協力して、世代間交流の促進や知識経験の伝承等、幼児から高齢者まで、また、障がいがある方も、気軽に参加できる活動を進めていきます。

アンケート調査では、小山田の緑豊かな自然を生かしたウォーキング大会やマラソン・生涯学習の講演会等開催希望が有りました。また、“ペタンク”という、楽しく・やさしく体を動かせるスポーツも、始良市スポーツ推進委員からの紹介もあり、市の大会に初めて参加しました。

他の専門部会や、毎週火曜日で開催されている「竜門わくわくサロン」などとも連携して、出来るだけ、今の活動回数で内容を工夫していくことも必要ではないかと思えます。

《楽しかったね ※ また参加したい》という活動の積み重ねが良い地域づくりにつながるのだと思えます。

③ 地域安全部会

地域の方々は、自然豊かな環境の中で安心して生活出来る事を望んでおられます。

近年、いろいろな地域で大災害が発生しています。さいわい竜門校区では大規模災害が起きていませんが、昨年6月、台風接近の時には、崖崩れも何ヶ所か発生し、80mm/h超す大雨で竜門小学校のグラウンドも、ひざ下まで浸水しました。今後、起こらない保障はありません。今まで以上に安心して安全な生活を送るために自主防災組織の設立が必要です。

④ 地域づくり部会

全国的な少子化により、竜門小学校の児童も減少してきています。竜門小学校開校以来、平成28年に初の複式学級となりました。小学校の縮小は地域の減少に直結するような事からですので、複式対策と県中央部に位置し、空港や高速のインターにも近いという地の利を活かして、地域活性化活動を行なっていきます。

Ⅲ【竜門校区がめざす将来像】

《1. 竜門校区が目指す将来像》

竜門校区の将来像を以下に示します。

将 来 像

- ・ 希望あふれ無限の力輝くわがふるさと
- ・ 人の和と緑潤う小山田の里
- ・ 出合いふれあい笑顔輝く小山田

《2. 分野別の基本方針》

将来像を達成するために、以下に示す4つの部会毎に「目指す姿と基本方針」を掲げ実現に向けて行動します。

専 門 部	項 目	内 容
伝統行催事部	目指す姿	伝統を次世代につなぐ
	基本方針	・ 伝統ある太鼓踊りと大井上神社祭礼の行事を次世代につなげていきます。
社会教育部	目指す姿	明るく元気な人と地域
	基本方針	・ スポーツ大会や竜門小・校区合同運動会を通じて交流と親睦を図ります。 ・ 立志式(中学2年生対象)に参加する中で、自分の将来への目標を明確にし、地域の良さや両親・家族・諸先輩方への感謝の気持ちをもつ機会とします。
地域安全部	目指す姿	自助,共助,公助で地区民が安心して生活できる地域づくり
	基本方針	・ 自主防災組織を結成し、お互いに助け合う環境を作ります。 ・ 防災訓練の実施等により、さらに防災への意識を高めまます。 ・ 竜門校区コミュニティ協議会、各自治会、小学校、各種団体、行政などと連携して情報の共有化を図るなど、災害等に対し行動できる地域を目指します。
地域づくり部	目指す姿	住み良い地域づくり
	基本方針	・ 小学校を中心に人と人の交流を図りふれあえる場所づくりを目指します。 ・ 次世代のための人材発掘やリーダー育成に努めます。

IV 【主な取り組みと役割分担】

専 門 部	目 指 す 姿	取組む分野
伝統行催事部	伝統を次世代につなぐ	大井上神社
		太 鼓 踊 り
社会教育部	明るく元気な人と地域	スポーツ大会
		竜門小・校区 合同運動会
		立 志 式
		青少年育成
地域安全部	自助、共助、公助で、校区民が 安心して生活できる地域づくり。	交通安全
		地域防災
		自主防災組織
地域づくり部	住み良い地域づくり	空き家対策
		地域おこし 協力隊
		集落支援員
		地域交通
		竜門小学校 複式対策
		お 祭 り

《専門部毎の取り組み》

専 門 部 名		伝統行催事部会					
目 指 す 姿		伝統を次世代につなぐ					
項 目		役 割 分 担			実 施 時 期		
		校 区	協 働	行 政	短 期	中 期	長 期
大井上神社	夏 祭 礼	○					
	秋 祭 礼	○					
	歳 旦	○					
	春 祭 礼	○					
太鼓踊り	虫踊り（7月）	○					
	加治木太鼓踊り（8月）		○				

※役割分担や実施時期

役 割 分 担		実 施 時 期	
校 区	校区内で取り組むこと	短 期	1～2年で取組む
協 働	校区と行政が共同で取り組むこと	中 期	3～5年で取組む
行 政	行政が取り組むこと	長 期	6～10年で取組む

《専門部毎の取り組み》

専 門 部 名		社会教育部会					
目 指 す 姿		明るく元気な人と地域					
項 目		役 割 分 担			実 施 時 期		
		校 区	協 働	行 政	短 期	中 期	長 期
ス ポ ー ツ 大 会	校区スポーツ大会 (秋・春)	○					
	始良市 コミュニティ対抗		○				
	始良 スポーツクラブ杯		○				
竜 門 小 ・ 校 区 合 同 運 動 会	運動会打ち合わせ	○					
	竜門小校区 合同運動会	○					
	次年度計画会	○					
青 少 年 育 成	立 志 式	○					
	青少年育成	○					

※役割分担や実施時期

役 割 分 担		実 施 時 期	
校 区	校区内で取り組むこと	短 期	1～2年で取組む
協 働	校区と行政が共同で取り組むこと	中 期	3～5年で取組む
行 政	行政が取り組むこと	長 期	6～10年で取組む

V 【計画の推進に向けて】

“まちづくりプラン”の作成につきましては、15名の策定委員の方々をはじめ、先進地視察や、“まちづくりプラン”アンケートへの調査等、校区の沢山の方々にご協力戴きました事、本当に有難う御座いました。

今後は、役割分担をしながら、“まちづくりプラン”にもありますように、実施時期を、短期(1～2年)、中期(3～5年)、長期(6～10年)、また、見直しなどをも含め設定し、次のように進めていきたいと思えます。

皆様のご協力を何卒よろしくお願い致します。

- 今回策定した「竜門校区コミュニティまちづくりプラン」を、地域全体の計画とするために、全住民への周知に取り組み、理解を図ります。
- 計画を推進していくためには、地域づくりのための仕組みづくりが必要です。コミュニティを中心に地域住民、自治会、行政などが参加、連携、協働することにより、計画の一層の充実を図っていきます。
- 計画の推進にあたっては、何に取り組み、予算はどう配分するのかなどを、民主的に透明性を持って決定していきます。
- 計画の推進にあたっては、人材の長所を活かし、お互いに補い合いながら、地域内の人的資源、特に若い力や女性の力の掘り起しに努めます。
- 計画は進捗状況を確認し、必要に応じて見直しを行っていくことが大切です。見直しが必要になった際には、コミュニティ内で話し合う場を設け、行政を交えながら計画を推進していきます。

VI【資料編】

1. 計画策定の経過

期 日	項 目	内 容	会 場
5月14日	コミュニティ協議会 第一回役員会	*まちづくりプラン事前打合せ	事務所
6月7日	臨時役員会	*策定委員選定公募と推薦	事務所
7月10日	第1回策定委員会	*まちづくりプラン取り組み・説明	2階会議室
9月15日	協議会役員	*アンケート作成・発送	事務所
10月10日	第2回策定委員会	*研修会候補地選択と現状把握	2階会議室
12月3日	先進地研修会	*地域おこし協力隊・自主防災組 織について(薩摩川内市)	市比野・平佐東 会議室
12月6日	第3回策定委員会	*まちづくりプラン アンケート集計結果確認	2階会議室
1月17日	第4回策定委員会	*まちづくりプラン基本方針決定	2階会議室
1月28日	協議会役員	*最終確認・発送準備	事務所
1月29日	協議会役員	*“まちづくりプラン”代議員配布	事務所
3月1日	4地区公民館長	*“まちづくりプラン”各戸配布	各自治会長

2. 竜門校区まちづくりプラン策定委員会委員

No	役 職	氏 名	策定委員会での役職
1	コミュニティ協議会長	東 木 義 和	委員長
2	“ ” 副会長東元公民館長	三 村 やよい	社会教育部会長
3	“ ” 事務局長兼会計	二 見 眞 寛	
4	西浦公民館長	鶴 田 良 子	伝統行催事部会長
5	西元公民館長	兼 松 裕 二	地域安全部会長
6	東浦公民館長	内 村 靖 夫	地域づくり部会長
7	東元地区公民館自治会理事	笹 峰 清 美	
8	西元地区公民館自治会理事	日 高 浩 美	
9	西浦地区公民館自治会理事	犬 童 良 和	
10	東浦地区公民館自治会理事	市来原 清 春	
11	竜門小学校校長	中 村 秀 文	
12	竜門小学校 PTA 会長	岩 元 水津瑠	
13	校区育成会代表	中 村 し の ぶ	
14	民生委員・児童委員代表	岩 元 道 男	
15	東部分団副分団長	脇 正 則	
16	協議会支援員	大 西 さおり	

